

グローバル・バリュー・チェーンとは何か

近年、グローバル・バリュー・チェーンという概念が国レベルや産業レベルに議論されている。そして、従来のモノの貿易という概念から「価値」の貿易への概念変化をもたらした点に注目を集めた。代表的な学者は、Gereffi.G, Haplinsky.R, および Timothy.J.Sturgeon である。彼らは、グローバル・バリュー・チェーンを①市場型、②モジュラー型、③関係型、④専従型、⑤階層型といった 5 つのタイプに分け、グローバル・バリュー・チェーンの発展に貢献した。しかし、国を対象にしたのは彼らの研究の前提である。グローバル・バリュー・チェーンを国・産業レベルから商品レベルまで下げて研究するのは本研究の目的のひとつである。

本研究では、グローバル・バリュー・チェーンという概念の原点である商品連鎖（コモディティ・チェーン）にたどりつき、①商品化、②商品連鎖、③中間財貿易を考察したうえで、商品連鎖からグローバル・バリュー・チェーンへの変遷を整理する。グローバル・バリュー・チェーンは新たな分析手法として、最終財のみならず、中間財を含めた貿易の分析ができる。しかし、これまでの先行研究が、有形商品および国レベルのもとでなされたことは主流であった。本研究では、それを踏まえたうえで、中間財貿易の重要性および先行研究の考察を行い、有形商品および国レベルの考え方は従来の貿易理論の特徴であることも示唆する。

さらに、グローバル・バリュー・チェーンという分析手法は、国・産業レベルではなく、商品レベルにおいて、どこまで適用することができるのかを考察する。それによって、グローバル・バリュー・チェーンという分析手法の限界と解決を提示する。また、サービスという要素を加え、グローバル・バリュー・チェーンという分析手法の適用性をより厳密に考察することができる。具体的に、スマートフォンの OS および App によるサービスを焦点に絞って考察する。

最後に、グローバル・バリュー・チェーンという分析手法は貿易理論に対する意義および今後の課題を提示する。